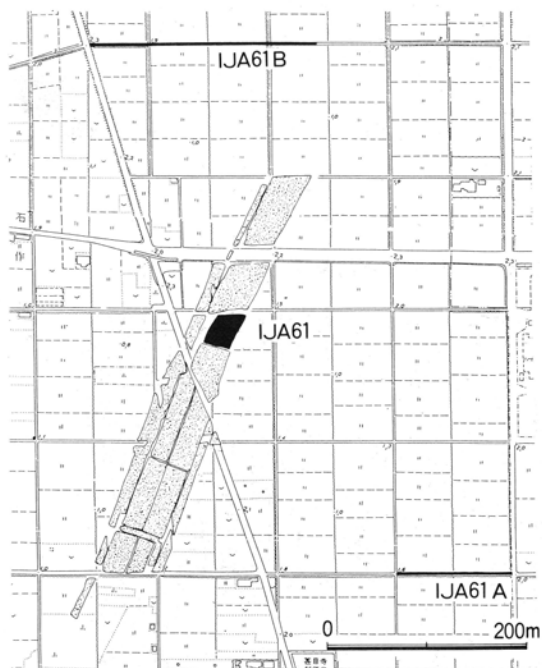


あ み だ じ 阿弥陀寺遺跡

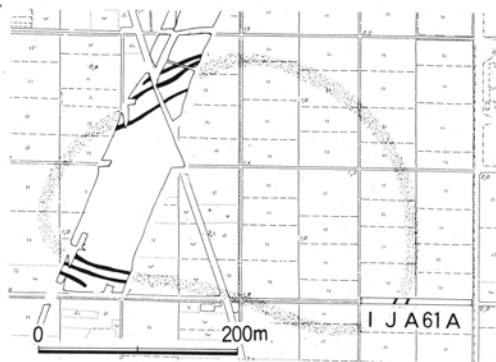
位置・経過：阿弥陀寺遺跡は、海部郡甚目寺町大字石作の字「阿弥陀寺」地内を中心とする一帯に所在する弥生時代～室町時代にかけての遺跡である。標高は遺構検出面で0.5m前後をはかる。昭和61年度、本埋蔵文化財センターでは、阿弥陀寺遺跡について、環状2号線関係1件(IJA60 1738m²)、福田川整備関係(IJA61A 360m²、IJA61B 660m²)の合わせて3件の調査を実施した。

IJA61調査区：弥生時代及び鎌倉・室町時代の遺構が検出された。弥生時代の遺構については、本年度の調査区が環濠の外縁部にあたることから、それが如何なる様相を呈するものか注目された。調査の結果、SD33の外縁は基本的には巾2m前後の平坦部が存したのち、漸移的に落ち込んでいくという様相を呈していた。注目されたのは、その一角に平面略三角形の突出部が存していたことである。この突出部については、人為的なものか否か問題も残るが、いまは、その整然とした形状を重視し、人為的所産と考えておきたい。なお、既発掘区(59A区)の所見からするとさらに西側に並んでもう一つ存した可能性がある。遺構の時期については、その斜面にSD33と同時期(貝田町・高蔵期)の遺物の散乱が認められたこと及び突出部を含む外縁部の埋土がSD33、32のそれと同様であった

ことから、SD32、33と同時期の所産として差し支えないものと考え。次に、鎌倉・室町時代の遺構については、先年度迄の知見から、本年度の調査では、大型方形土壌群の区画(60C区)と屋敷地(60D区)との間の様相の把握が主要課題であった。調査の結果、両者はそれぞ



第1図 調査区位置図(アミは既調査区)



第2図 環濠集落概念図(貝田町・高蔵期)

れ溝で以って画されており、その間はあたかも「道」の如き景観を呈していた。遺構の時期区分についてはなお検討を要すが、総じて14・15世紀代に比定される。

IJA61A調査区：弥生時代の溝2条及び室町時代の溝・土坑が検出された。殊に弥生時代（貝田町・高蔵期）の溝は、その形状・埋土が、環状2号線内の調査区で検出された環濠と酷似することから、その延長と考えられるものである。推察されるところの環濠集落の範囲を示せば第2図のとおりである。

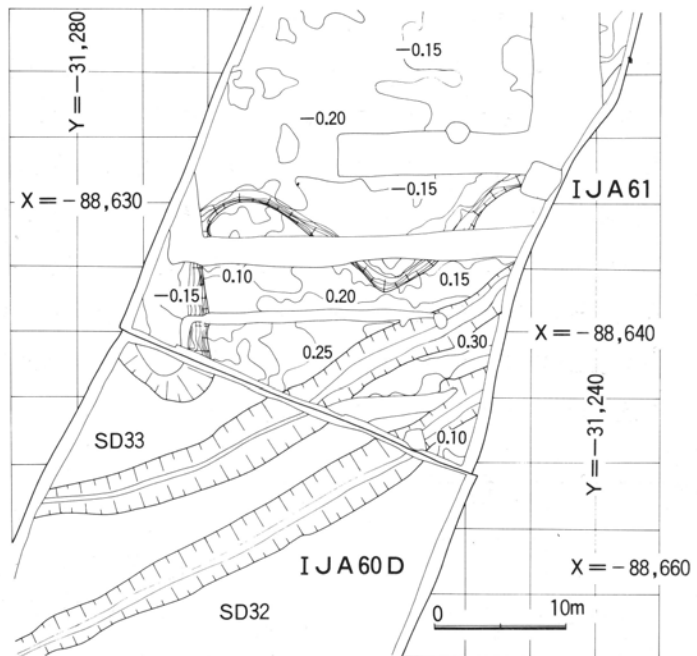
IJA61B調査区：鎌倉・室町時代の方形土坑5、溝3等が検出された。この方形土坑は清洲町土田遺跡において多数検出されているものと同種のものである。（浅井和宏）



IJA61A調査地点(西より)



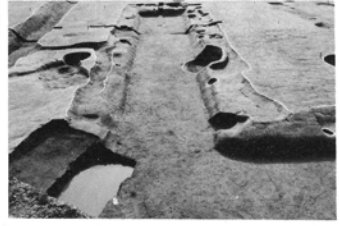
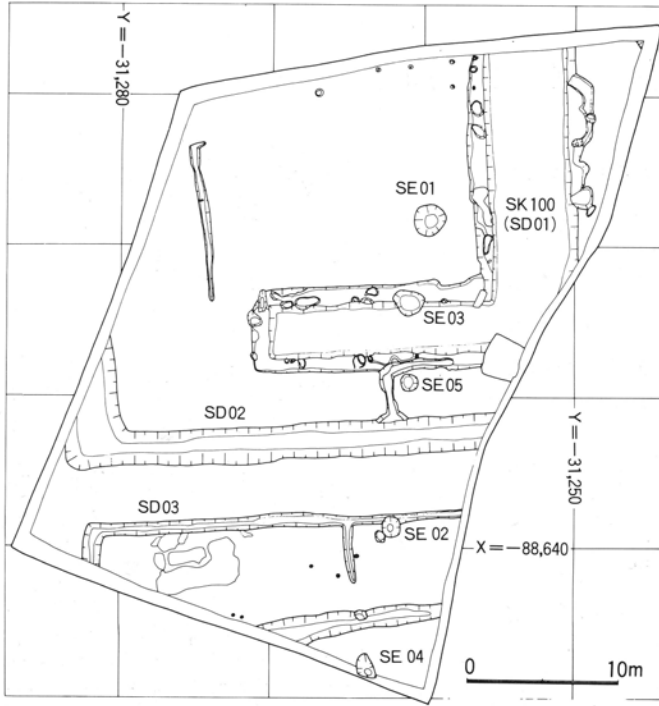
環濠外縁の突出部



第3図 環濠外縁部遺構図



環濠外縁部 全景(左IJA60D、右IJA61)



大型方形土坑 (SK 100)



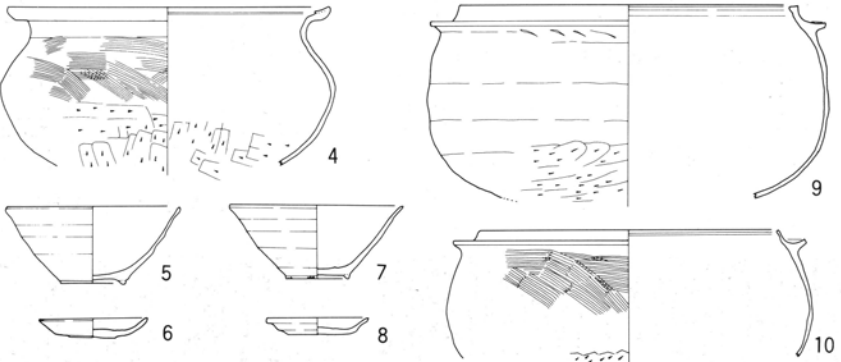
第4図 鎌倉・室町時代遺構図 (IJA61)

IJA61B調査区

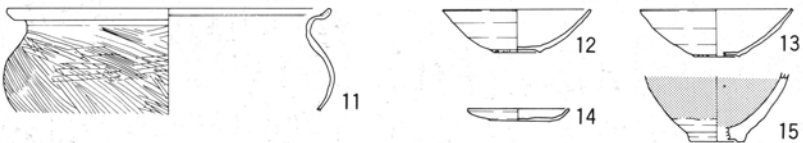
IJA61 SK100



IJA61 SD03



IJA 60C SX03 (参考)



第5図 出土遺物 (1/6)